

# 第3回神戸アニマルケア国際会議 2014

## 一人と動物の未来の為に



報道関係者各位

2014年7月17日  
ICAC KOBE (アイカック神戸) 事務局

**2014年7月19、20日に神戸ポートピアホテルで、「第3回神戸アニマルケア国際会議 (ICAC KOBE) 2014 一人と動物の未来の為に」(参加無料)を開催いたします!**

### 【目的】

この会議は、阪神・淡路大震災15周年を契機に、全ての動物を対象とし、そのより良いケアや生息環境の保全を目指すための情報交換・新技術の創出等を議論することにより、人を含む世界中の動物の福祉を向上させ、以って、我々人間が果たしうる責任を広く社会に示し、幸福な人と動物との共生を更に前進させることを目的とする。

### 【開催趣旨】

お互いの存在に『感謝』し、生ある限りは『幸せ』であることが、いのちに対する『責任』である。」我々人間が、全てのいのちに対して果たしうる責任をこのように位置付けたこの会議では、阪神・淡路大震災の経験を通じての第1回、東日本大震災と向き合った第2回と、『人と動物の未来の為に』獣医療、緊急災害時の対応、共通感染症、食の安心・安全、動物の社会的在り方、人と動物の絆等、各専門分野からの議論を続けて参りました。

そこで、第3回は副題を『人と動物の未来の為に』とし、各専門の分野から、現時点で最も求められる有用な議論を選び、深めて頂くことと致しました。人も動物も幸せに居られる未来の為に、我々人間に出来る努力を明らかにし、人と動物、そして生態系の心身共に健康な未来実現に寄与します。

■主催 公益社団法人日本獣医師会 / 公益社団法人 Knots

■共催 公益社団法人日本医師会 / 一般社団法人兵庫県獣医師会 / 公益社団法人神戸市獣医師会

◎基調講演「インフルエンザウイルスの生態：鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ対策のために」喜田 宏氏

### ◎シンポジウム

- シンポジウム I 「身近に存在する人と動物の共通感染症」
- シンポジウム II 「動物達が開く心の扉～CAPP活動15,000回を迎えて」
- シンポジウム III 「暴力の連鎖：人間に対する暴力と動物虐待の関連性」
- シンポジウム IV 「ずっと一緒に居られる」社会へー飼い主を支えるシステムが実現する豊かな社会」
- シンポジウム V 「One World, One Health～今、北極で何が起こっているのか?～」
- シンポジウム VI 「畜産現場における野生動物被害」
- シンポジウム VII 「高度動物医療と終末期動物医療(安楽死処置を含む：平穏死について)」の現状
- シンポジウム VIII 「畜産 Now! 一食の安全と動物福祉」
- シンポジウム IX 「奈良県いのちの教育ー子ども達へ「いのち」を伝える試み」

◎ポスターセッション 国内外13名が参加《パドゥア大学(イタリア) / 金沢大学 / 大阪府立大学 / 神戸市立須磨海浜水族園 / 帝京科学大学 / 水島中央病院 / 奈良女子大学大学院 / コロンボ大学大学院(スリランカ)》

《お問合せ先》ICAC KOBE (アイカック神戸) 事務局

〒658-0047 兵庫県神戸市東灘区御影3丁目2番11-20(公益社団法人 Knots 内) / 担当: 白川)

TEL: 078-843-8970 FAX: 050-3730-0738

## 主催者のご挨拶

### ■ 藏内 勇夫（公益社団法人 日本獣医師会 会長）

この会議は、われわれが阪神・淡路大震災の経験から学んだ「命に対する責任」をテーマとして開催してまいりましたが、あの大災害からすでに 20 年近くが過ぎ去り、そしてさらに多数の人と動物が犠牲になった東日本大震災からも 3 年を経過しました。

私が日本獣医師会会長として特に力を尽くしたい課題の一つに、日本獣医師会と日本医師会との連携の強化があります。「ワンヘルス」の理念の下、獣医学と医学が一つになり、獣医師と医師とが協力して人と動物の共通感染症等への対応を推進していきたいと考え、2013 年 11 月には日本医師会と協定書を締結したところです。

この会議では、人と動物に関連する幅広い分野の専門家が集い、海外の関係者にも加わっていただいて、さまざまな「いのち」に関する意見の交換が行われ、その意味で「ワンヘルス」のイメージを具現化した会合であるといえます。

日本獣医師会としては、今後とも、関係者との連携を緊密にして、国民の理解も得ながら、「いのち」をテーマとして幅広い活動を展開していきたいと考えています。



### ■ 富永 佳与子（公益社団法人 Knots 理事長）

— One World, One Life —

来年は、阪神・淡路大震災から 20 年を迎えます。震災から 15 年を契機に、様々ないのちに対する責任に向き合おうと設置されたこの会議は、回を重ねるごとに、その関わる範囲の幅広さと共に、「ヒトもまた生き物であり、あらゆる生き物の存在があり、私たちの住む地球がある。それは分断されるものではなく、つながったものである」という当たり前の事実を、改めて私達の目を向けさせてくれました。

ICAC KOBE のキーワードは、『お互いの存在に感謝し、生きている限りは幸せであることが、いのちに対する責任である』というものです。この会議を通じ辿り着きましたのは、「ひとつの豊かな地球は、ひとつひとつのいのちの幸せをつないでいくことで構築されていく」のではないかとことです。

この概念を、『One World, One Life』と標題に表現させて頂きました。世界はグローバル化し、私達は、お互いに影響し合うこと無しに、生活することは出来なくなっています。ひとつの豊かな地球へとつながるように、ここ神戸から、全ての生き物達のたくさんの喜びと幸せを創出していけるよう、議論を深めて頂ければと願っております。



## 会議アドバイザーからのメッセージ

### ■ 笹井 和美 (公立大学法人大阪府立大学 獣医学類 教授)

近年、地球規模での食料危機、環境問題、良質で安全な畜産製品の供給、バイオリソースとしての生物資源の確保やその利用、伴侶動物の健康管理、新興・再興感染症、食品衛生等の諸問題に対して獣医師の役割は日々重要度が増しています。さらに、災害時等における動物救護は獣医師に向けられた大きな課題となっています。未曾有の大震災から3年を経過した現在でも被災したヒトや動物は元の穏やかな生活を取り戻すまでに至らない状況が続いています。



このようななか、ヒトと動物の共生の実現に対して重責を担う獣医師の養成には劇的な変化があり、文部科学省は平成25年3月に取りまとめた「教育改革の進捗状況と獣医師養成の在り方について」において、現状の獣医学教育を見直し、「One World, One Health」の実現に向け、新たな社会的ニーズ、国際的な通用性の確保、獣医師の活動分野の偏在などの課題に対応した獣医学教育の改善・充実を推し進めています。

日本の獣医学教育に対する「前向き」かつ「実りのある」議論が進み、ヒトと動物が自然に、豊かに暮らせる社会の実現の一助となるような会議として進めていきたいと考えております。

## 大学院生によるポスターセッション

### ■ パリーノ・アレッシア氏 (パドゥア大学)

#### 「動物保護：男性の選択」

弱者を尊重し、守り、思いやる男の子の教育

動物、子ども、女性は日々、無神経な男らしさの被害者である

動物虐待と人間間の暴力との重大なつながりについて卒業論文のテーマにしてきたが、それを通じて、イタリアで、あらゆる命を守るための大切さを子どもたちに気付かせるための新しい教育を開発したいと望んでいます。犠牲となる動物たちは、「社会的弱者」と呼ばれる女性や子どもと同じ立場にあり、暴力の加害者の多くは、弱者をいじめることで自分の強さを主張している。

暴力には未来はなく、我々は暴力で支配することのない男性を求めており、それを育てるための次世代の教育を必要としています。

### ■ ゴラム・アバス氏 (金沢大学 分子神経学・総合生理学／感染症病院)

#### 「Bangladeshにおける集団狂犬病予防接種 (MDV=mass dog vaccination)」

人畜共通感染症である狂犬病は、Bangladeshで人々の深刻な健康問題であり続けています。狂犬病は、世界中でわずかな例外を除いて現在も存在しており、最も被害を受けているのがアフリカ、アジアですが、南アメリカでも流行しており、世界中で年間7万人の人が狂犬病で死亡していると推定されています。

アジア地域では東南アジアが発症最多で、インド年間2万ケースで現在世界ナンバーワンであり、Bangladeshでは毎年2千人が狂犬病で死亡しています。その大半88%が田舎の地域で、49%が子どもです。そして、99%が犬からの感染です。

狂犬病撲滅は、人間、動物の分類を超えた「One Health」の良い例となっており、政府の伝染病管理部が他の2つの省庁と共に、複数の国際機関、開発団体などと狂犬病撲滅活動の指揮をとっています。

私たちも  
参加します!